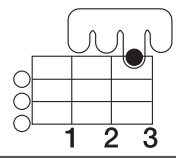
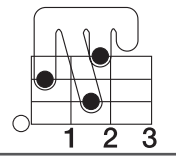
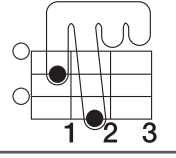
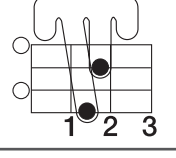
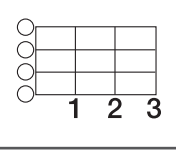
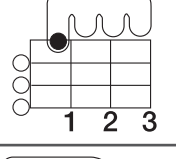
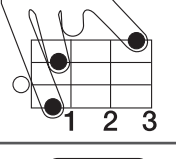
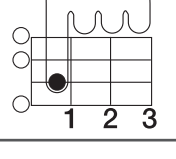


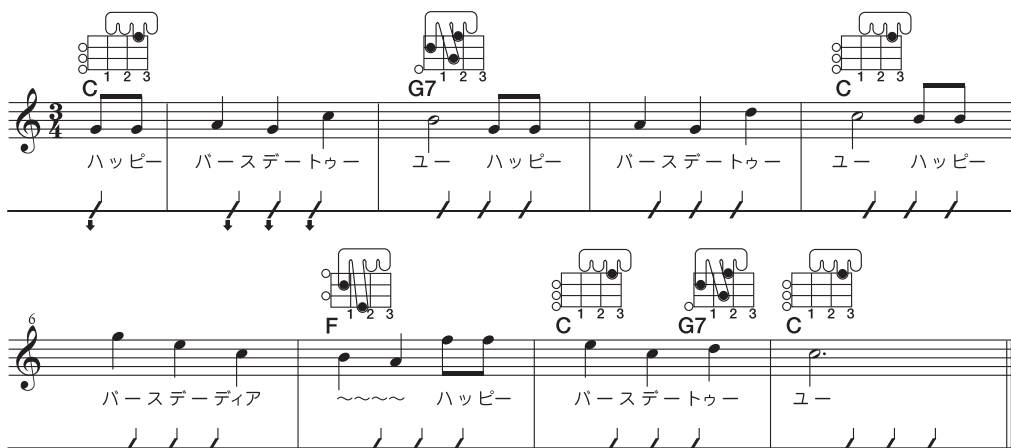
組み立てたウクレレを演奏してみましょう

- ウクレレは、左手で弦を押さえ、右手で弦を弾いて演奏します。左手はコード(和音)を押さえ、右手はコードをたくさん覚えればより多くの楽曲を弾くことができるようになります。まずは簡単なコードを覚えて演奏してみましょう。
- タブ譜の表記  は左手(弦を押える手)のフレットを押える位置と押える指を示します。示されたフレットの近くを丁寧に押さえましょう。しっかり押さえないときれいな音になりません。
- タブ譜の表記  は右手(弦を弾く手)のダウンストロークを示します。上から下へ人さし指を使って弦を弾きます。



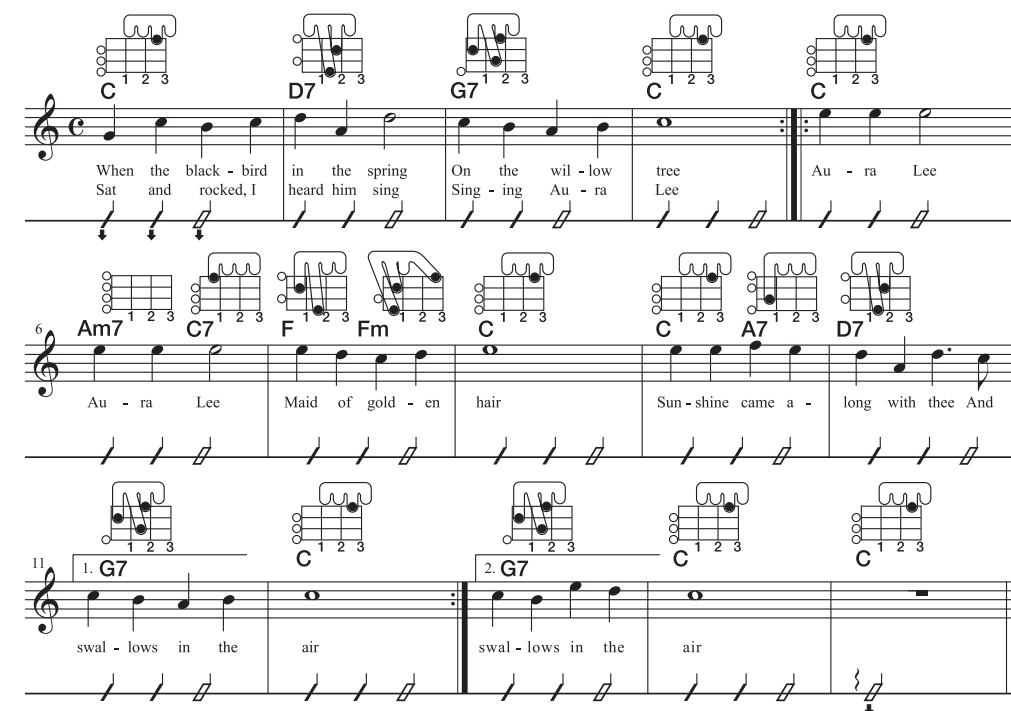
使用するコード	
C	
G7	
F	
D7	
Am7	
C7	
Fm	
A7	

♪ハッピーバースデーユー Happy Birthday to You



♪オーラ・リー Aura Lee

プレスリーが歌った「ラブ・ミー・テンダー」の原曲です。



■輸入発売元

株式会社 鈴木楽器製作所

〒430-0852 静岡県浜松市中央区領家2-25-7 TEL (053) 461-2325 www.suzuki-music.co.jp



お問合せ
フォーム

© Edition SUZUKI GAKKI
3208-SHA-MM-227-B
MADE IN CHINA

SUZUKI

スズキ手づくり楽器シリーズ

ウクレレキット UKK-2 組立説明書



TEZUKURI



組み立て・ご使用を安全におこなっていただくため、この説明書を必ずお読みください。読み終わった説明書は、なくさないよう大切に保管してください。

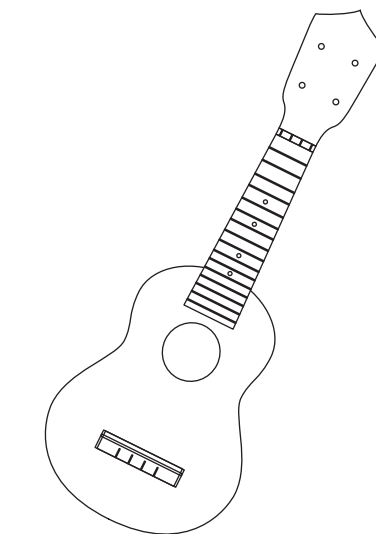
ウクレレとは？

アメリカ・ハワイを中心にポリネシアの島々で用いられる、やわらかくあたたかい音色が特長の弦楽器です。1870年代にポルトガルの船乗りが持ち込んだ4弦の“マチュテ”という楽器をまねて創り出されたという説があります。“ウクレレ”とは、現地の言葉で「ノミが跳ねる」という意味です。ウクレレを弾いている手の動きから名付けられたとも、演奏者のニックネームから名付けられたとも言われています。

組み立てる前に、入っているものを確認しましょう

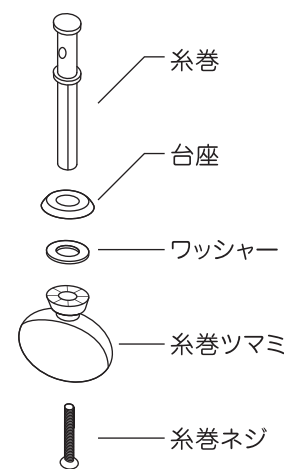
※小さな部品をなくさないように、空き箱などに入れて作業しましょう。

① 本体(ボディ)×1本

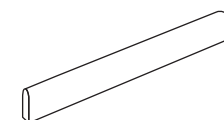


② 糸巻×4個

糸巻ネジをはずすと、5つの部品になります。

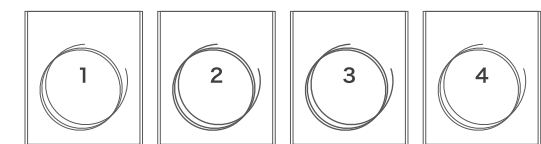


③ 弦駒×1個



④ 弦×4本

1弦 ラ(A)、2弦 ミ(E)、3弦 ド(C)、4弦 ソ(G)



▶必要な工具: プラスドライバー(No.2)、ハサミ

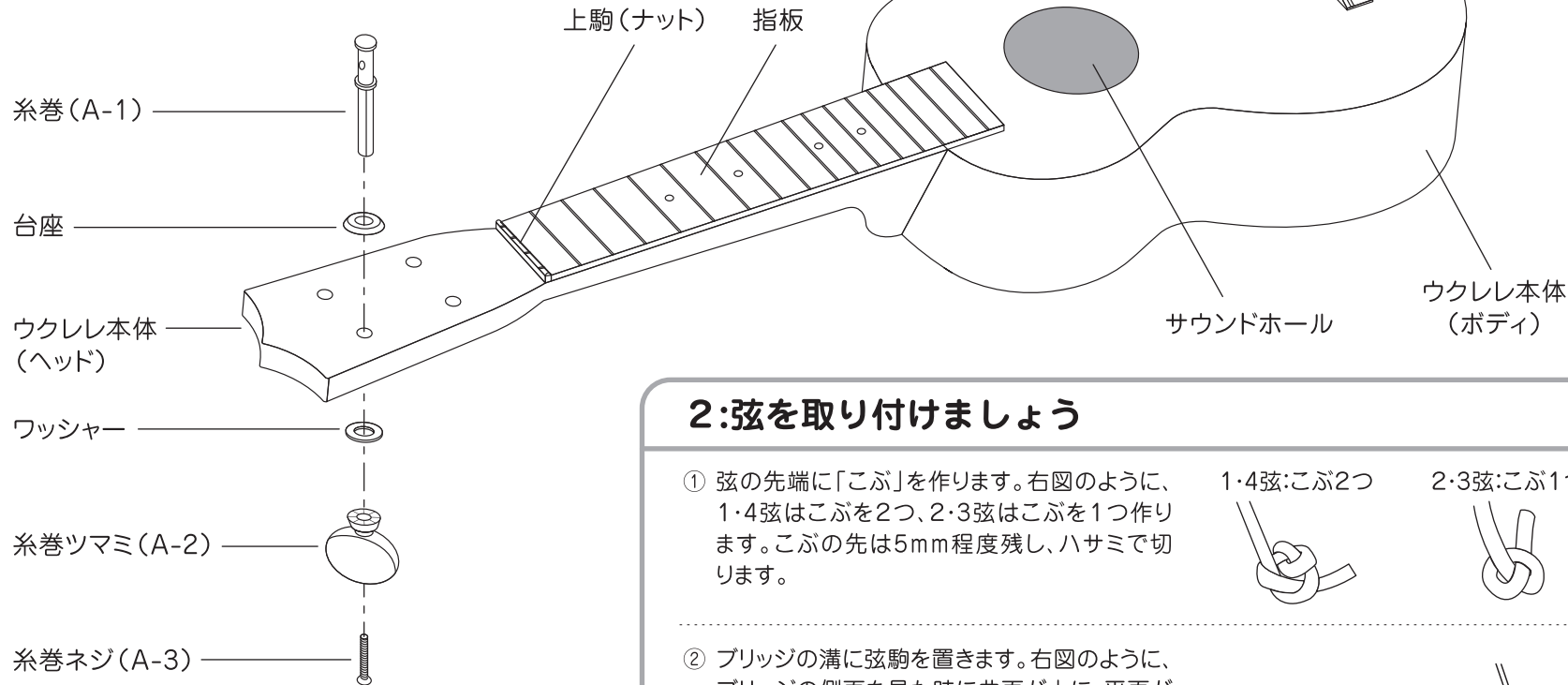
⚠ 注意 組み立てる前に必ずお読みください。

- ❌ 熱くなる場所を避けてください。
自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなる場所での使用、保管は避けてください。変形・故障の原因になることがあります。
- ❌ 衝撃を与えないでください。
製品をぶつけたり、落としたりしないでください。製品に傷をつけるだけでなく故障の原因になります。

- ❌ お手入れはやわらかい布で。
お手入れはやわらかい布でカラ拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を傷めますので絶対に使用しないでください。
- ❌ 不安定な場所に置かないでください。
製品を不安定な場所に置かないでください。転倒・落下して、お客様が思わぬケガをする危険性があります。

1～3の手順に従って、ウクレレを組み立てましょう

※小さな部品をなくさないように、空き箱などに入れて作業しましょう。
※木製のため、色やサイズなどに個体差がある場合があります。
調整しながら組み立てていただくことを想定した製品です。

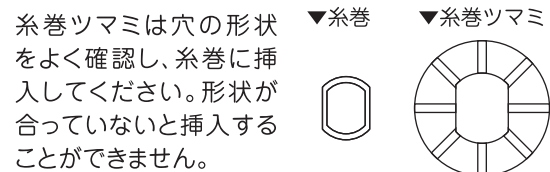


着色する場合は組み立て前に行いましょう

アクリル絵の具や色鉛筆、油性ペン、木部に使用できる塗料などで着色できます。クリアラッカーやニスで仕上げるとつやが出て塗装がはがれにくくなり、本格的な仕上がりになります。着色については着色剤の取扱説明書に従ってください。

1:糸巻を取り付けましょう

- ① 本体の表側から台座・糸巻 (A-1) を挿入し、裏側からワッシャー・糸巻ツマミ (A-2) を挿入します。



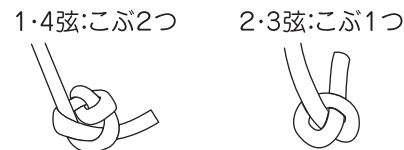
☆ポイント 糸巻 (A-1) が本体の穴に入りづらい場合は、やすりなどを使って穴の大きさを少しずつ調整しましょう。

- ② 糸巻 (A-1) と糸巻ツマミ (A-2) を上下から押さえつけながら、糸巻ネジ (A-3) をNo.2のプラスドライバーで締めます。糸巻ツマミがスムーズに回る程度まで締めつけてください。
※糸巻ネジの締めつけが強すぎると糸巻ツマミが回りません。

- ③ 残り3箇所の糸巻を同様に取り付けましょう。

2:弦を取り付けましょう

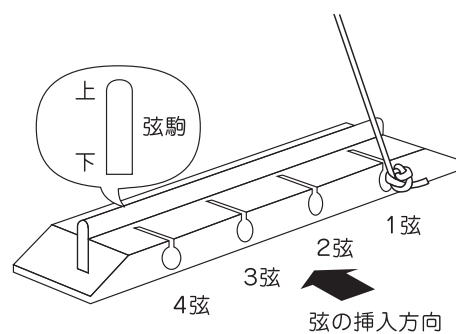
- ① 弦の先端に「こぶ」を作ります。右図のように、1・4弦はこぶを2つ、2・3弦はこぶを1つ作ります。こぶの先は5mm程度残し、ハサミで切ります。



- ② ブリッジの溝に弦駒を置きます。右図のように、ブリッジの側面を見た時に曲面が上に、平面が下になるように置いてください。

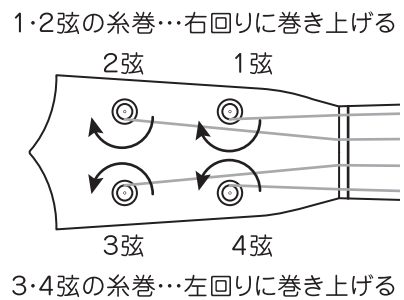
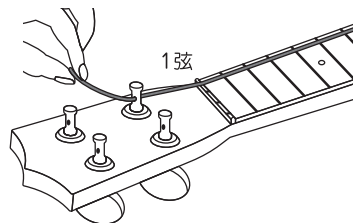
☆ポイント 弦駒が溝に入りづらい場合は、やすりなどを使って溝を少しずつ調整しましょう。

- ③ 1弦から順番に弦を取り付けます。①で作ったこぶを、図の挿入方向からブリッジの穴に挿入し、こぶをしっかりと押し込んでください。



☆ポイント こぶが穴に入りづらい場合は、ドライバーの先端などを使って押し込みましょう。

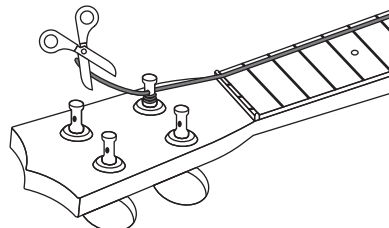
- ④ 弦を糸巻の穴に通します。上駒の溝に弦が入っているのを確認し、弦を上方向に軽く引っ張りながら、糸巻ツマミを回し、巻き上げます。



- ⑤ 弦は糸巻の上から下に向かって、3～4回巻くと固定されます。余分な弦は2cm程度残し、ハサミで切ります。

※糸巻ツマミを回しても弦が固定されない場合、糸巻ネジの締めつけが弱い可能性がありますので、糸巻ネジを少し強く締めてください。

- ⑥ 残り3本の弦を同様に取り付けましょう。



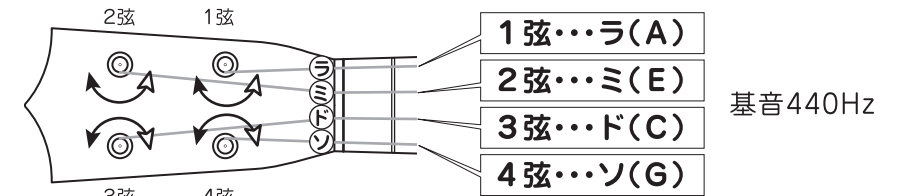
3:調律をしましょう

⚠ 指定以上に高い音に調律すると弦が切れたり、ブリッジが外れる恐れがあります。

- 糸巻ツマミを回して音を合わせます。

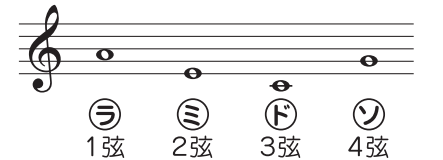
弦を張る → 音が高くなる
弦を緩める → 音が低くなる

- それぞれの開放弦を以下の音に調律します。
(開放弦…何も押さえないで弾いたときの音)



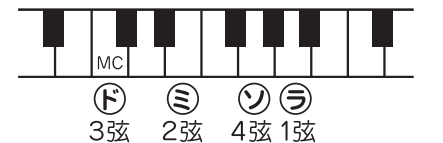
- チューナーを用いて調律する場合

各弦が右の音階になるよう、チューナーを見ながら1弦ずつ調律していきます。
(A=440Hz)

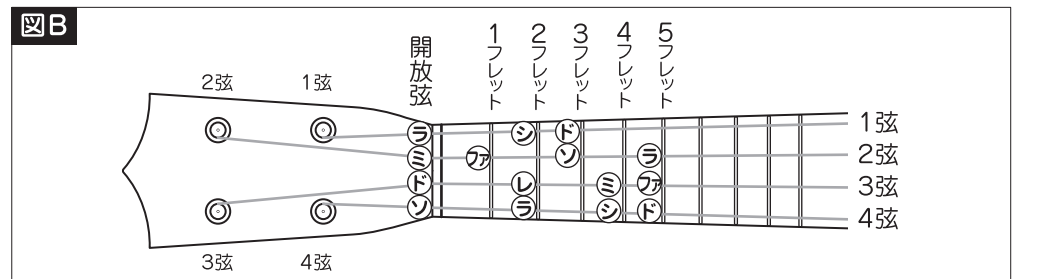
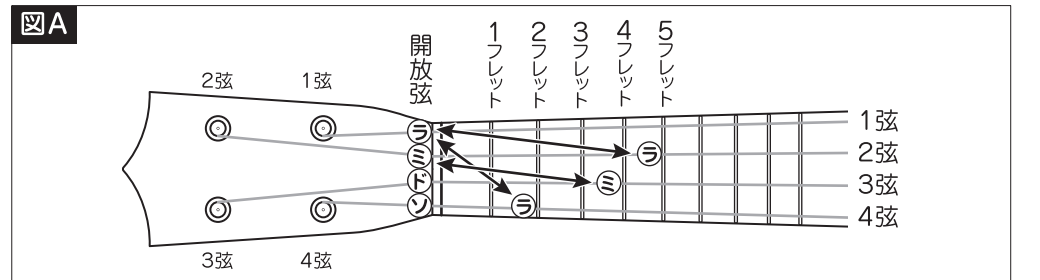


- 調子笛や他の楽器(ピアノなど)を用いて調律する場合

- ① 4つの弦いずれかの音を合わせます。基本は、1弦ラ(A)もしくは、3弦ド(C)をまず合わせます。



- ② 1つの弦を正確に調律した後、図Aのように同じ音を他の弦でフレット位置を変えて鳴らしながら合わせます。例えば、1弦の開放弦ラ(A)は2弦の5フレットと同音です。2弦の開放弦ミ(E)は3弦の4フレットと同音です。1弦の開放弦ラ(A)は4弦の2フレットと同音です。(その他の音の関係は図B参照)



※ 図Bに示す1オクターブの最低音は、3弦の開放弦(ド)になります。最低音以外の同音はどちらを弾いても同じ音になります。弾きやすい位置を使います。1オクターブが素早く弾けるように練習しましょう。
※ 調律をする時の音程の聞き取り方として、2本の弦の波長のうなりを聴いて合わせる方法があります。波長が異なる場合は「ワウワウ」のようにうなりが聞こえます。調律が合う時(波長が合う時)は、このうなり音が消えて1つの音がきれいに持続します。
※ 1オクターブ上の音階で調律をするとブリッジが外れる恐れがあります。
※ 弦そのものが持つ伸縮性があるため、調律したあとも弦が安定するまでは多少の狂いがあります。弦が安定するまで調律を繰り返してください。